

2013 年 4 月 30 日

プロジェクト報告書

団体名 特定非営利活動法人日本ペルー共生協会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

AJAPE震災対策民俗講座

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

東北大地震後、外国人がこの地で築き上げたすべてを捨てて日本から脱出していく様子を目の当たりにして、宗教や習慣がいかに異なると言えども地震国日本で生活をしていく以上震災から身を守りその後起こるであろうさまざまな困難やデマに振り回されることなく自身及び家族の身体、生命、財産を守る術を示唆することの必要性を痛感した。そこで、ペルー及びラテンアメリカスペイン語圏出身者を対象にして、震災発生時に何をしなければならぬか事前、発生中、事後に区切って学校、行政、コミュニティとのかかわりを伝える。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

継承言語(スペイン語)、継承文化(ラテンアメリカ諸国の歴史)、継承民俗(民族舞踊)の講座を開講し、これに参加する子供とその保護者を対象に、震災対策講座を実施する。又民族舞踊の発表を行う。

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

「のど元過ぎれば熱さ忘れる」のたとえの通り、「震災講座を開きますから集まってください。」と言ってみても日々の生活に追われている彼らにその余裕はないので、継承言語、継承文化、継承民俗との触れ合いの中で、彼らのアイデンティティーを尊重しながら伝えていった。そのせいもあってか予定を上回る参加者があり、事後のアンケートでもその効果が確認された

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

継承言語(スペイン語)と日本語とのバイリンガルによる小学生の学習指導に参加者が19名もあり大盛況であった。講習会をしてみて予想以上に基本的な事柄が理解できていないこともわかった。9月の安全講習の時に車は左、人は右でさえも知らずに車を運転している人もいたことがわかった。3月の防災講習会は具体的な訓練や注意を聞くことができたことと好評であった。長く日本に住んでいるがこのような講習会をはじめてであったと言っていた人もいた。災害はいつ起きるかわからないので普段からの準備が必要であると痛感した。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり

日本ペルー共生協会主催・真如苑 2013年3月9日防災訓練の講習会

町田市民フォーラム保育室で開催

子ども10人、ペルー人大人8人参加

町田市消防署の署員が日本語で説明：

防災に関する基礎

119番の通報の手順、注意に関する講習



←119に通報した際の注意

日本語で消防署員の説明の通訳↓



←テスト用消火器を使用して
初期消火の方法の練習

開催前にはペルー料理の交流会開催



日本人6人+ペルー人6人の参加

スペイン語での料理講習をしたのち全員で試食

